

小学校社会科における探究型の授業デザイン

学習デザインコース

藤本 祥平

研究の背景・動機

社会の急激な変化

現代社会の諸課題も複雑化・多様化

- 社会事象について自ら考え、選択・判断する **子ども像**

- 「子どもたちとともに」学び続ける **教師像**



研究の目的

小学校社会科において探究型の授業をデザインし、その実践を通して、子どもたちに「公民としての資質・能力」にどのような変容が見られたか省察する。

探究の捉え

探究とは学習方法の総体を指し、**真正の課題**に対して **自分ごと** で考える主体性が不可欠である。

探究

習得型学力
(個別的知識・技能)

活用型学力
(一般的知識・技能)

授業モデル

つかむ

調べる

まとめる

いかす

【**いかす** 段階における授業デザインの例】

(第4学年「**ごみの処理と利用**」より)

第1時	・ 金沢市の家庭ごみ有料化 について把握する。 ⇒ 《なぜ、家庭ごみが有料化したのだろう》
第2・3時	・ 家庭ごみの有料化は、ごみの減量・資源化を目的としていることを理解する。 ・ 有料化によって本当にごみの量が減ったのか調べる。
第4時	・ 家庭ごみが有料でない自治体もあることを示す。 ⇒ <あなたが市長なら、家庭ごみを有料か無料かどちらにしますか>

いかす の充実には、

つかむ 調べる まとめる

において、基礎的な知識・技能の獲得が不可欠

実践にむけて

- 現代社会の諸課題に通ずる **題材 (単元)**
- 多面的・多角的な視点を与える調べ活動
- **自分ごと** として捉えることができる **真正の課題**



いかす の問いが

子どもたちから生まれることが理想的

楽しく意欲的に取り組むことのできる

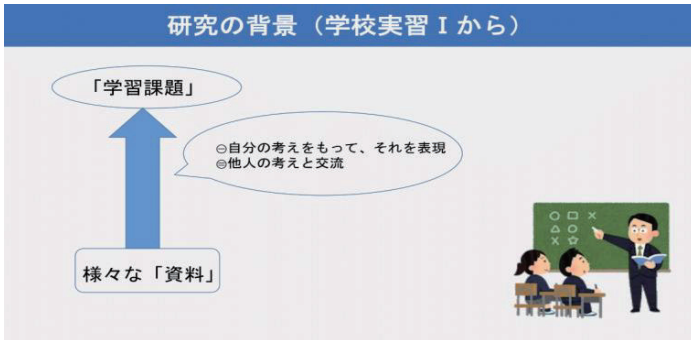
中学社会科授業実践

～資料活用力を基盤として～

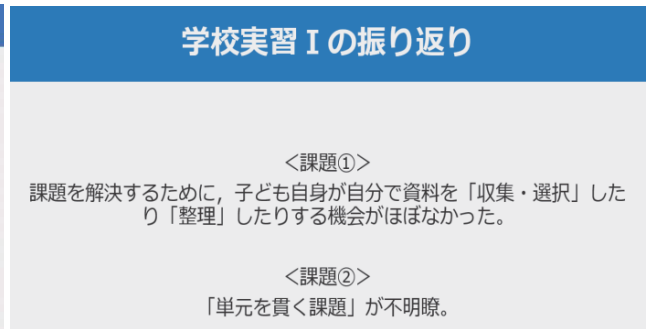
学習デザインコース

細川雄大

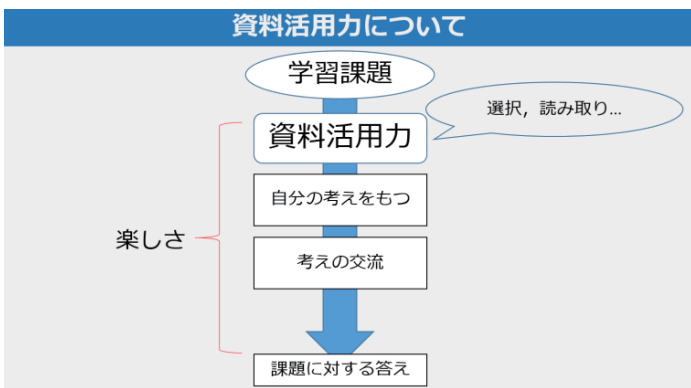
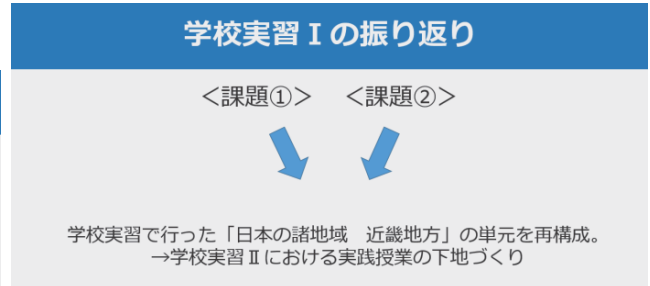
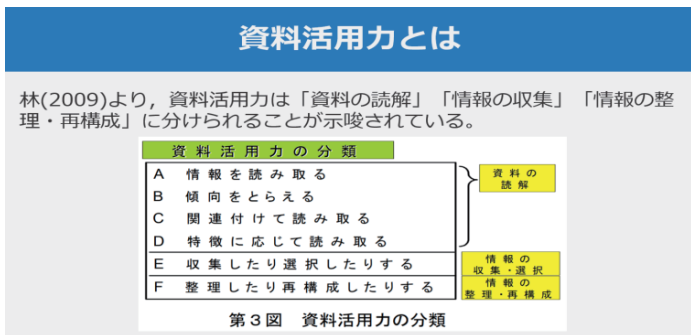
(1) 研究の背景



(3) 学校実習 I の振り返りと取り組んでいること



(2) 資料活用力について



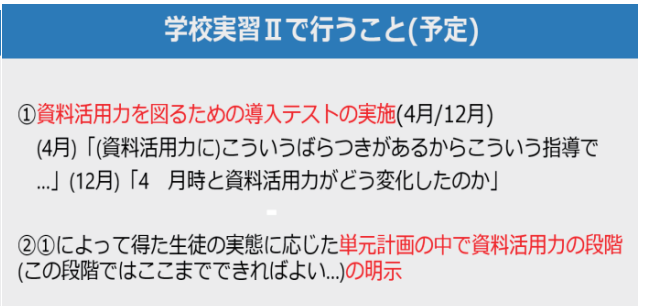
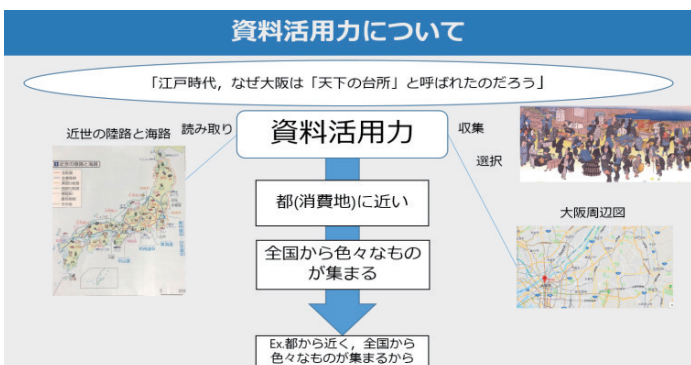
学習単元の再構成

時	ねらい・主な学習活動	学習における主な評価基準
1	近畿地方をとらえる見方は何だろう ・近畿地方はどんなレンズを用いるべきなのか考える。 ☆近畿地方を捉える「歴史的背景」というレンズに気づくことができる	・近畿地方がどのような地域なのか、意欲的に調べようとしている(関心・意欲)
2-4	近畿地方について調べよう ・自らが選択した県について、「歴史的背景」という見方を基にして調べる。	・自らがどのような資料を用いれば良いか選択し、情報を収集することができる(資料活用)
5	近畿地方について交流しよう ・自らが選択した県について、グループで紹介しあう	・自らが収集した資料から情報を整理・再構成し、適切に表現することができる(思考・判断・表現)
6	近畿地方の特色はどのようなものだろう ・近畿地方はどのような特色がある地域なのか、自らが調べた県や、他の県のことを踏まえて考える。	・近畿地方の地域的特色を理解することができる(知識・理解)

・資料活用力【単元でつけた力】

・近畿地方ってどんな地域なんだろう？【単元全体の課題】

(4) 今後行うこと





運動の楽しさを味わう体育科授業づくり

学習デザインコース 山本 理沙



1. 研究の動機

実習Ⅰ（ハードル走）



⇒体育の授業を通して、運動が楽しいと感じられるには、授業で何が必要なのか？

2. 研究方法

①楽しさの定義

- 「スポーツの遂行やその結果によって生ずる快感情に対し、学習者の新しい意味付け・価値付けがなされた状態」(千駄,1989)
- 楽しさの要素と具体的な種類を関連づけると



友と交わる
楽しさ
【親和】【承認】

発見する
楽しさ
【理解】

進歩する
楽しさ
【達成】【優越】

動く楽しさ
【向上】【挑戦】
【爽快】

(高田,1985)

②4つの楽しさを軸とした単元構成

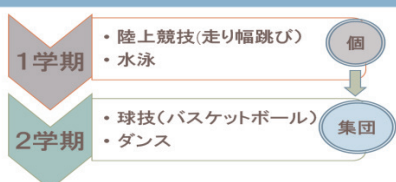
- 種目の特性、楽しさを理解した上で単元構成を作る。
- 「ねらい」に迫るために、どんな「気づき」のある授業にするか具体的に考える。

生徒の主な活動と思考の流れ	授業のポイント	生徒の主な活動と思考の流れ	授業のポイント
<p>第一次①<感じを込めて表現するために、全身を自由に動かしてみよう></p> <ul style="list-style-type: none"> ・全身を使って動くのは難しいな ・跳んだり、走ったり、止まったりしてもいいのは面白い ・体は色々な形に変わるんだな <p>○オノマトペや音楽から動きを生み出せるかな</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イメージを体で表すのは難しいな ・「ドンツ」の音でも、色々な表し方があるな <p>○ペアで動きをつなげてみると、どうなるかな</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お互いの動きを認め合うとスムーズにつながる ・繰り返しや、左右対称にするだけで変化がある <p>オノマトペや音楽を使うと、全身を使って動けたよ。同じ音でも、お互いの動きをつなげると色々な表現をすることができたよ。</p>	<p>日常生活に溢れている音を連想して、体を動かす。</p> <p>オノマトペの表現に正解はなく、自由な発想で動くことができる。</p> <p>⇒「動く楽しさ」につながるかと考える。</p> <p>ペアで協力することで表現の幅が広がることに気づかせる。</p> <p>単元を通しての生徒の課題を明確にする</p>	<p>第二次①<表現したいイメージを捉えて、動きの種類を増やしてみよう></p> <ul style="list-style-type: none"> ・喜怒哀楽は自分の感情をのせやすいから、色々な動きが浮かんでくる ・ステップは難しいけど、できると嬉しい <p>○他の中学生が作った作品を見て、イメージを膨らませよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなで協力して振りつけを揃えているのがカッコいい ・動きだけでなく、隊形の移動も工夫しているな <p>○曲を聴いてイメージしたことから、班でテーマを決めよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動会で頑張った優勝したときのことを表現したいな ・楽しい様子をつたえたいけど...どんな楽しい場面か考えないといけないな <p>発表会へのイメージが湧くと、色々なアイデアが浮かんでくるな。みんなで協力して、いい作品をつくりたい。</p>	<p>ダンス発表会とは、具体的にどんな様子になるのか、どんな作品を作っていくのかイメージを持たせる。</p> <p>感じを込めやすいように、自分たちでテーマを設定させる。「この曲を聞いて、何を思い浮かべた？」</p> <p>作品づくりに向けて、具体的な構成の方法を考える課題を設定する。</p>
ダンス発表会に向けて、感じを込めて表現できるようになるにはなにを、どうすればいいのかな		自分たちの伝えたいことを、表現するには、どんな構成にすればいいのかな	

4つの「楽しさの要素」を軸とした単元構成を考え、実施種目における、**楽しさの実感を持たせる**ことで、生徒たちの**生涯スポーツへのきっかけ**となる授業を行えるようになるのではないかと。

3. 研究の流れと検証方法

実習Ⅱ実施計画(予定)



- 事前アンケート（生徒の実態を把握）
- 授業後の振り返り学習カード
- 事後アンケート（項目を細分化）
- 生徒からの聞き取り

対話と協働を生み出すための研修コーディネーターの役割について

～生徒指導に関する校内研修・OJTのコーディネートを通して～

学校マネジメントコース 小田 朋一

1. 研究の動機

～先行研究・報告～

- 「生徒指導に関する教員研修の在り方について」(H23文科省 報告書)

信頼関係構築・児童理解の重要性

協働して問題解決していける能力

自己研鑽に励む資質

- 「小学校からの生徒指導～『生徒指導提要』を読み進めるために～」(H23国立教育政策研究所紀要 滝充)

生徒指導が意図的・計画的に行われていない恐れを指摘

～石川県～

- 「石川県教員育成指標【教諭等】」

石川県教員育成指標【教諭等】

段階・能力	ステージ	1. 基礎的知識(教員養成)	2. 実践的知識(初任教員)	3. 学習者への知識(コアカン教員)	4. 指導的知識(主任教員)
児童との関わり	児童との関わり	児童生活環境に関する基礎的知識を身に付けていく。	児童生活環境に関する知識・技能を身に付け、児童生活環境の改善を図ることが出来る。	児童生活環境に関する知識・技能を身に付け、児童生活環境の改善を図ることが出来る。	児童生活環境に関する知識・技能を身に付け、児童生活環境の改善を図ることが出来る。
生徒指導	生徒指導	児童生活環境に関する基礎的知識を身に付けていく。	児童生活環境に関する知識・技能を身に付け、児童生活環境の改善を図ることが出来る。	児童生活環境に関する知識・技能を身に付け、児童生活環境の改善を図ることが出来る。	児童生活環境に関する知識・技能を身に付け、児童生活環境の改善を図ることが出来る。
教員としての	教員としての	児童生活環境に関する基礎的知識を身に付けていく。	児童生活環境に関する知識・技能を身に付け、児童生活環境の改善を図ることが出来る。	児童生活環境に関する知識・技能を身に付け、児童生活環境の改善を図ることが出来る。	児童生活環境に関する知識・技能を身に付け、児童生活環境の改善を図ることが出来る。

全ての教職員がそれぞれのステージにおいて研修し、その役割を務める必要性

～学校では～



2. 研究の目的

対話・協働して課題解決する意識が高まる

学校研究のよい研修システムを利用すれば...

意図的・計画的に進める生徒指導に関する校内研修やOJT

- ・課題やニーズの明確化
- ・校内リソースの発掘
- ・課題や研修内容を共有する流れ
- ・今ある時間を利用

生徒指導上の課題
・いじめ・不登校・問題行動等

実践プロセスを記述・分析し、対話と協働を生み出すための研修コーディネーターの役割について、その要点を考察する

3. 研究の方法

～PDCAサイクルによる研修の実践～

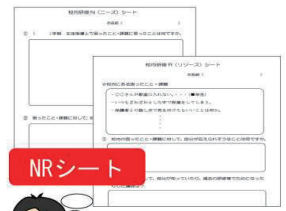


～PLAN～

- ・ニーズ・リソースの確認
- ・研修・講師を選定

講師は...

- ・コーディネーター本人
- ・コーディネーターが選んだ校内・外部の人材
- ・教職員全員



企画・立案

コーディネーター

～DO～

- ・年間計画の現状と照らし合わせた全職員対象の校内研修・OJTの計画・実践



コーディネーター

研修計画表

＜ミニ研修＞
●隔週1回終礼後20分
・日々知っておきたいことに対応
・研修後の対話を促す

＜ビッグ研修＞
●月1回 45分
●喫緊の課題や全体共有したいことに対応
・効果検証を促す

～CHECK・ACTION～

機械的なシステムだけでなく人とのつながりで実効性を!

コーディネーター

検証・改善

- ◎定期的にニーズを確認
- ◎研修計画の見直し
- ◎各主任との対話
 - ・教 務：日程・調整
 - ・生徒指導：従来の研修との比較
 - ・研究/保健：研修内容の検討と振分

教職員個々との対話を繰り返し、主任チームを機能させる

4. 研究の分析方法

☆対話・協働は生まれているのか？

- ・職員アンケート
- ・抽出した職員への聞き取り

☆課題解決への寄与が見られるか

- ・児童アンケート
- ・保護者アンケート

チームリーダーに求められるマネジメント力の向上

～各課主任のマネジメント学習会の組織実践を通して～

学校マネジメントコース 松本学

1. 研究の目的

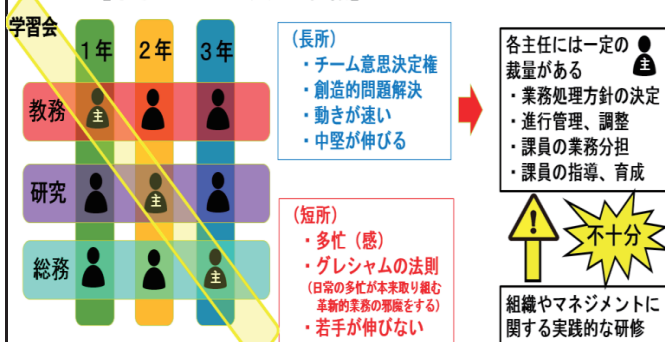
●各課主任を対象とした学習会をととして

- ・主任同士をつなぐ **人** **経** **学** **知** **理** **論**
 - ・一般的な組織マネジメント理論を知る **理** **論**
 - ・各校務分掌の運営が変わる **認** **識** **行** **動** **組** **織**
- チーム作り・チームリーダーの在り方について
実践的・協働的に検証する

2. 研究テーマ設定の理由

●各課主任を対象とした研修の機会が少ない

【水平型・マトリクス組織】



3. 研究計画

(1) 方法

共通の授業空き時間を活用して月一回50分程度の学習会を実施する

(2) 進め方



Point 理論と実践の往還による学びが進むように

(3) 工夫

①学習会の充実とタイムマネジメント

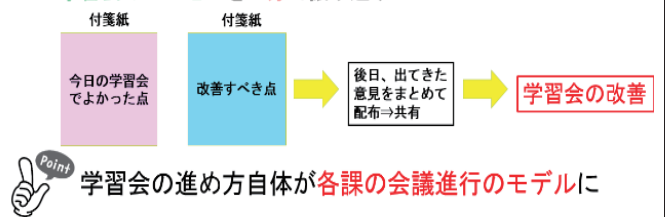
- ・会議の前後の時間の活用



②学習会の改善

- ・ミーティングレビュー(学習会の振り返り)の実施

学習会のプロセスを1分で振り返り



4. 検証(評価)について

(1) 内容

- ・成果と課題をノウハウとしてまとめる

認識の変容 各主任の考え方やものの見方の変化

行動の変容 各主任の振る舞いや行動の変化

組織の変容 各課における組織活動の変化

(2) 方法

- ・まとめの学習会での対話、自身の考察、課員アンケート

5. 課題

各課主任を対象とした協働実践となり、
新たな研修の場は負担と感しないか

【管理職】

地位に基づく権威・権限をもって働きかける
「ポジショナルパワー」
=「管理力」
がよりどころ

【チームリーダー】

価値を共有し
共感・共鳴を得て働きかける
「パーソナルパワー」
=「感化力」
がよりどころ

「目的」「見通し」「メリット」の共有 → 「価値」創造と共有

Point 「価値」を共有、共感、共鳴を得ることができる
第1回目の学習会が重要

カリキュラム・マネジメントにおける教職員のチーム学習実践

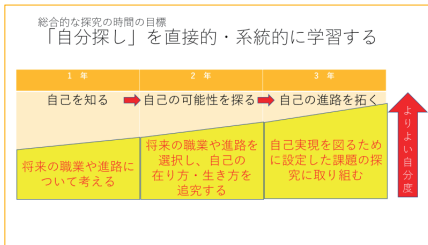
～総合的な探究の時間の授業打合せを通して～

学校マネジメントコース

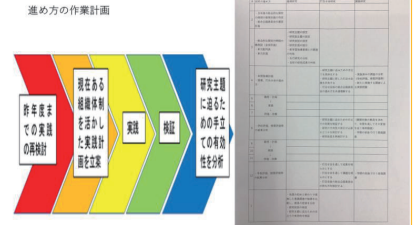
水島 美佳穂

研究の目的

研究計画



「総合的な探究の時間」の授業打合せに**チーム学習**を取り入れた活動を実践することで、「総合的な探究の時間」の3年間の系統だったカリキュラムの構築と**教職員集団としての意識と能力を継続的に高め、伸ばし続けるチーム化**が図られるかどうかを検証する



検証方法

- ・学校組織に関する意識アンケート
- ・授業評価アンケート
- ・学校評価アンケート
- ・観察対象者の参画状況の分析による事例的手法

研究の背景：様々な問題状況

特色あるカリキュラム

- 総合学習の利点が生かされているか？
- 寺井高校は入りたい学校か？

新学習指導要領への対応

- 平成31年度から先行実施
- 具体的な資質・能力をどのように形成し、身に付けるか？

教員活動の文を創造や刷新

- 新学習観に基づいた教育って？
- 教師の仕事は超ブラック？

チーム学校としての在り方が問われている

チーム学校としての在り方が問われている

- 寺井高校の3年間の最終生徒像って？
- 共有ビジョンを築く

チーム学校としての在り方が問われている

- 特色あるカリキュラムは誰がつくるの？
- 職業型学校から協働性の構築

チーム学校としての在り方が問われている

- あれも、これも、それも、どれもできるものから改善
- 全体像をとらえ、本質を見出す

研究結果の予測

- ・教員間で寺井高校の3年間の最終生徒像が共通理解される
- ・授業担当者は、総合的な探究の時間の授業に主体的に関わり、やりがいを感じる
- ・コミュニケーションの質が改善し、組織の協働性の向上が見られる
- ・総合的な探究の時間が充実し、系統だったカリキュラムが形成される

課題の解決に向けて

授業打合せ会の質を高める

- *メンバー間の**関係の質**を高めて、状況の共通理解や仲間であるという共通の基盤を築く
- *メンバーの**専門性や人間性**を活かす

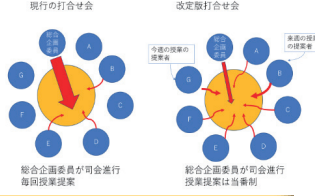


授業打合せ会のシステム化

打合せ会の流れ (原則50分)	1	2	3	4	5
①はじめに (3分)					
②中核授業の打合せ (10分)					
③実践授業の授業案検討 (30分)					
④まとめ (4分)					
⑤振り返り (3分)					

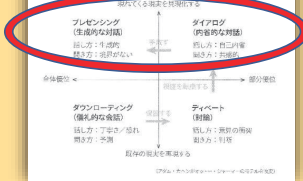
総合企画委員会を機能させる

- *授業打合せ会の**ファシリテート機能**と位置づける
- ***コミュニケーションの質と形態の改善**を行う



聴き手が自分事として受け止め、アイデアの具体化に向け共に知恵を出し合う

話し方・聴き方のルールを明確にして、場の**心理的な安全感、安心感**を確保する。



関係の質の向上から始めるチームの協働体制の構築

～ボトムアップによる業務改善の取り組みを通して～

学校マネジメントコース 脇田 潤

業務分担の適正化等により、3年後までに時間外勤務時間が月80時間を超える教職員ゼロを目指す。

「教職員の多忙化改善に向けた取組方針」(2018・3 県教委)

＜生産性を高める組織の考え方＞

$$\text{生産性} = \frac{\text{得られた成果 (分子)}}{\text{投入した資源 (分母)}} \\ (\text{ヒト・モノ・金・時間})$$

「分母」を減らすために仕事の「ムダどり」を行う

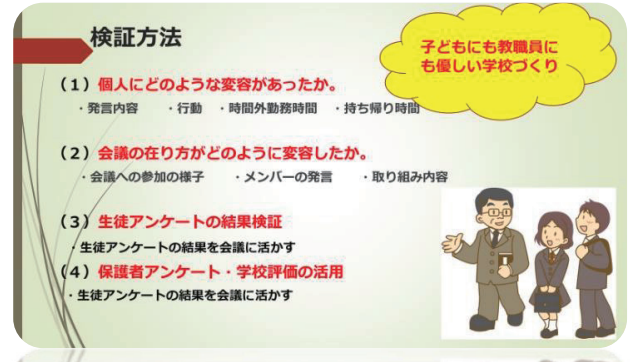
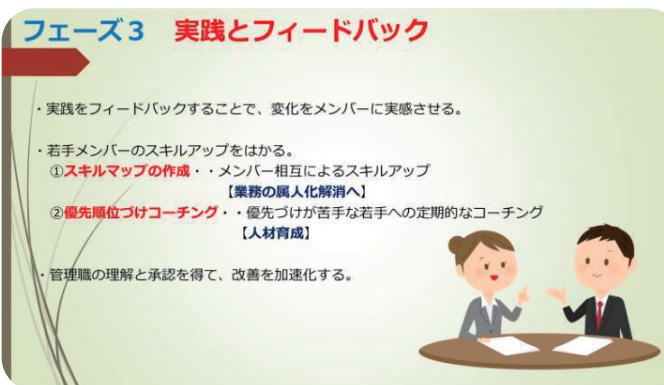
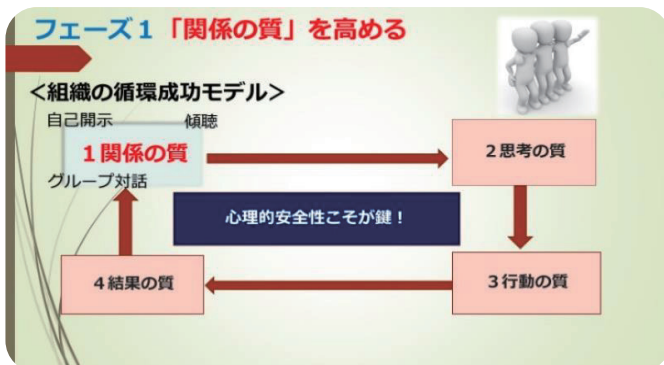
「分子=成果」を増やすために重要な仕事を増やす

生産性が高まる！

働き方改革とは、

重要な仕事にかかる時間を増やすために、重要でない仕事にかかる時間を減らすこと

Q 現場レベルでどのように業務改善を進めていくか？



金沢大学教職大学院フォーラム報告書（2018年度）

2019年10月31日 印刷発行

発行所 金沢大学大学院教職実践研究科
